

バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）検出に伴う対応について

当院において、平成30年（2018年）5月に6名の患者さんから vanA 遺伝子を有するVRE（バンコマイシン耐性腸球菌）が検出されました。これを受けて、当院の感染管理室を中心に検出当初から院内感染対策の厳重な実施と、関係病棟に入院されている患者さんの便のスクリーニング検査を実施しているところであります。

現時点で検査実施件数は延べ7000件以上となっており、12月までの期間で合計64名の患者さんからVREが検出されました。これまでの解析で院内感染の可能性のある事が分かっておりますことから、八戸市保健所には定期的に報告を行って助言を受けるとともに、日本赤十字社感染管理相談ネットワークや岩手医科大学附属病院感染症対策室などの外部機関の指導・支援を受けながら鋭意感染防止対策の強化を進めているところであります。

入院中の患者さんやご家族の方々、関係者の皆様にはご心配とご迷惑をお掛けしておりますが、ご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

※バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）について

VREは抗菌薬には耐性ですが、通常、便の中で保菌されている状態では病気の原因になりません。しかし、免疫力が低下していたり、手術後やカテーテルを挿入されている等の患者さんには病気を引き起こすことがあります。VREが原因となり、感染症を発症した場合は、有効な抗菌薬が限られるので治療が難しくなる可能性があります。

平成31年2月7日

病院長